

SDGsへの理解を広めたい

先進国と開発途上国に共通する開発目標として打ち出されたSDGsには、企業をはじめ、さまざまなセクターから高い関心が寄せられている。岡崎有香さんはJICAの内外で積極的に情報発信を行い、SDGsに関する理解を広めている。

自発性引き出す支援が必要

「世界で一番困っている人たちのために何かをしたい」。そんな思いから国際協力に関心を持つようになり、大学卒業後は青年海外協力隊に参加。感染症・エイズ対策隊員としてマダガスカルへ派遣されました。

ここでは、現地の高校生向けにHIV感染や望まない妊娠の予防に関する研修を行いました。まず、複数の高校からリーダー格の生徒を集めて避妊の大切さなどを教え、自分の学校で知識を広めてもらいました。

ところが、あるとき、リーダー格の女子生徒の一人が妊娠し、高校を中退してしまつたのです。「あれだけがらばって避妊の大切さを伝えたのに」と打ちのめされましたが、「知識だけ教えても、身にならない」と感じ、任期の後半は、さまざまな高校を直接訪問し、生徒自身に避妊の予防策を考えてもらう授業を行いました。

授業では、「デートのとき、女子は兄に同行してもらうようにする」などのユニークな意見が挙がりましたが、実際にそれを実行に移す子も出てきました。そんな経験から「上から押し付けるのではなく、自分たちで考え、行動してもらうことが大切なんだ」と気付くことができました。

任期終了後は、国際協力的分野の知見を深めるため英国の大学院に留学しました。あるとき、アフガニスタン人の留学生に、彼が協力隊に参加していたことを話すと、彼

は突然、私に敬礼しました。驚く私に、彼は「日本は、僕たちの国に多くのことをしてくれた」とお礼を言ったのです。改めて日本の援助の意義を感じ、帰国後はJICAに就職しました。

外部からの期待に応えたい

現在、私はSDGsに関する国内外の動向を調査し、その情報をJICA内で発信したり、JICA外でのSDGs関連のイベントやセミナーに参加したりしています。日本では、企業や教育機関、地方自治体など幅広いセクターの間で、SDGsに対する関心が高まっています。私自身、これまでに会ったことがないような人と話をする機会が増え、ネットワークが広がりました。

SDGsは、先進国と開発途上国が共に目指す世界共通の目標であり、一人一人が自ら考え行動することが大切です。そのため、難しい部分をなるべく分かりやすく説明すると同時に、「世界を変える可能性を持つSDGsに取り組むのは、わくわくすることだ」と伝えられるよう努めています。

先日、東京の市ヶ谷にあるJICA地球ひろばでSDGs関連の展示を行うにあたって、ガイド役の地球案内人の皆さんにSDGsの概要を説明しました。すると、皆さんが「私だったら、SDGsをこう説明する」と、自分なりの説明方法を考えてくれたことに、とてもうれしくなりました。

一方、「SDGsを具体的な案件形成にど



マダガスカルの高校生たちと。協力隊時代の経験は、内発的な行動を促す重要性を教えてくださいました

企画部 総合企画課
(SDGs推進班) 専門嘱託

岡崎 有香
OKAZAKI Yuka

大学卒業後、青年海外協力隊としてマダガスカルへ派遣される。英国留学を経て、2014年からJICA中国国際センターで勤務し、昨年より現職。

う生かせれば良いのか」など、実際にSDGsに取り組む上で、JICA職員の間にもさまざまな戸惑いがあります。そこで現在、地方の拠点を含め、JICA内で積極的に勉強会を開催しています。昨年は20回以上開催し、延べ1000人以上の職員に参加してもらいました。さらには在外事務所現地職員に対しても、英語で研修を行っています。

SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」というスローガンを実現するためには、社会のさまざまな分野で、革新的な取り組みが必要です。こうした中、多くの人が「JICAがSDGsにどう取り組もうとしているのか」に関心と期待を寄せているのを感じます。今後は同僚や外部のパートナーたちと共に、JICAならではのSDGsの取り組みを追究し、世界から評価されるようなプロジェクトをつくっていきたいと思います。



日本の各地でSDGs関連のセミナーやイベントに登壇する岡崎さん。SDGsについて分かりやすく伝える努力を続けている